

2025年度 第2回自治医科大学附属病院医療安全管理監査委員会 報告書

1 日時

2026年2月18日(水) 10:00~12:00 於 立体駐車場棟 大会議室

2 監査委員

委員長 尾澤 巖(地方独立行政法人栃木県立がんセンター 理事長)

副委員長 大槻 マミ太郎(自治医科大学 副学長)

委員 内山 聖(悠久崇徳学園 副理事長)

齊藤 正昭(自治医科大学附属さいたま医療センター 医療安全管理室長)

(欠席委員) 山口 育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)

【敬称略】

3 自治医科大学附属病院出席者

| | |
|------------------|-----------------|
| 管理者 | 川合 謙介(病院長) |
| 医療安全管理責任者 | 今井 靖(副病院長) |
| 医療の質向上・安全推進センター長 | 新保 昌久(病院長補佐) |
| 医薬品安全管理責任者 | 片野 昌宏(薬剤部副薬剤部長) |
| 医療機器安全管理責任者 | 木村 好文(臨床工学部技師長) |
| 医療放射線安全管理責任者・代理 | 寺島 洋一(画像診断部技師長) |
| 診療録管理責任者 | 興柵 貴英(医療情報部長) |
| 感染制御部長 | 笹原 鉄平 |
| 病院事務部長 | 桑原 健 |

4 監査方法

特定機能病院としての医療安全管理体制等が機能しているか等、医療安全管理の取り組み状況等について、外部監査員による必要な是正措置を含む助言や指導を行う

5 監査実施項目

1 自治医科大学附属病院医療安全管理について

- ① 当院の医療安全文化の醸成に関する客観的評価の活用
- ② 身体的拘束最小化に関する体制の再構築
- ③ QSマネージャーとの連携強化による各部署における主体的な安全活動の推進
- ④ 若手医療スタッフへの医療安全に関する人材育成環境の整備
- ⑤ 医薬品の安全使用の推進

2 取組事例紹介

① 持参麻薬紛失事例における改善対策について

下記改善対策が報告された。

- ・入院中に施用しない麻薬は患者または患者家族に返却する。
- ・持参麻薬を預かる場合は、管理簿に必要事項を記載し、ひとまとめにして「持参麻薬返却用紙」を貼付して、麻薬金庫に保管する。
- ・持参麻薬を保管している期間は、病棟薬剤師が麻薬金庫を確認し、管理簿にチェックを記載する。

② 報告書確認対策チームの活動

重要所見があった場合、放射線読影医により要読レポートとすることで効果があったことが報告された。

3 高難度新規医療技術の導入及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供について

- ① 高難度新規医療技術の申請及び審査状況
- ② 特定診療の申請及び審査状況
- ③ 未承認新規医薬品の申請及び審査状況
- ④ 適応外医薬品使用の申請及び審査状況
- ⑤ 未承認新規医療機器の申請及び審査状況
- ⑥ 適応外使用医療機器の申請及び審査状況

4 医療放射線安全管理の現状について

5 院内感染症対策について

6 院内ラウンド

病棟において持参麻薬紛失事例における改善対策が確認された。

6 監査結果及び意見

- ・医療安全に係る体制ならびに業務の状況について監査を実施した結果、医療安全管理が適正に実施されていることを確認した。
- ・身体拘束最小化に関する体制の再構築について、身体拘束同意取得に関するルールが定められていないことが指摘された。
- ・若手医療スタッフへの医療安全に関する人材環境の整備について、インシデントレポートの一番の目的は、病院として安心安全な医療を提供していくことであるため、不適切なインシデントレポートはフィードバックして指導し、若手医療スタッフでもインシデントレポートの内容を理解して、記載できるように教育していくことは重要である。
- ・報告書確認対策チームの活動について、今後も全国の病院の手本となる対策に取り組んでほしい。
- ・次回以降、このような大学病院でどのようなAIの導入やっているのか具体的に紹介してほしい。
- ・今後も栃木県のリーダーとして引き続き医療安全に取り組んでほしい。

以上